

開園時間

午前9時～午後4時30分(ただし本丸御殿、西の丸御蔵城宝館への入場は午後4時まで)
現在の天守閣は耐震性が低いことに対応するため、入場禁止(閉館)となっています。

休園日

12月29日～31日・1月1日

料金

区分	個人	団体		
		30人以上	100人以上	
観覧料	大人	500円	450円	400円
	名古屋市内高齢者	100円	90円	80円
定期観覧券	大人	2,000円	●定期観覧券の有効期限は1年間です。	
	名古屋市内高齢者	600円	●定期観覧券・徳川園共通券の団体割引はありません。	
徳川園共通券	大人	640円	●名古屋市内高齢者の方は名古屋市敬老手帳をご提示ください。	
	名古屋市内高齢者	160円	●障害者手帳などをご提示の方、中学生以下は無料です。	

有料駐車場 正門前・二の丸東(東門前)

区分	単位時間	料金
普通車	30分以内	180円
	30分増すごとに	180円
大型車 (正門前のみ)	1時間以内	600円
	30分増すごとに	600円

お問い合わせ

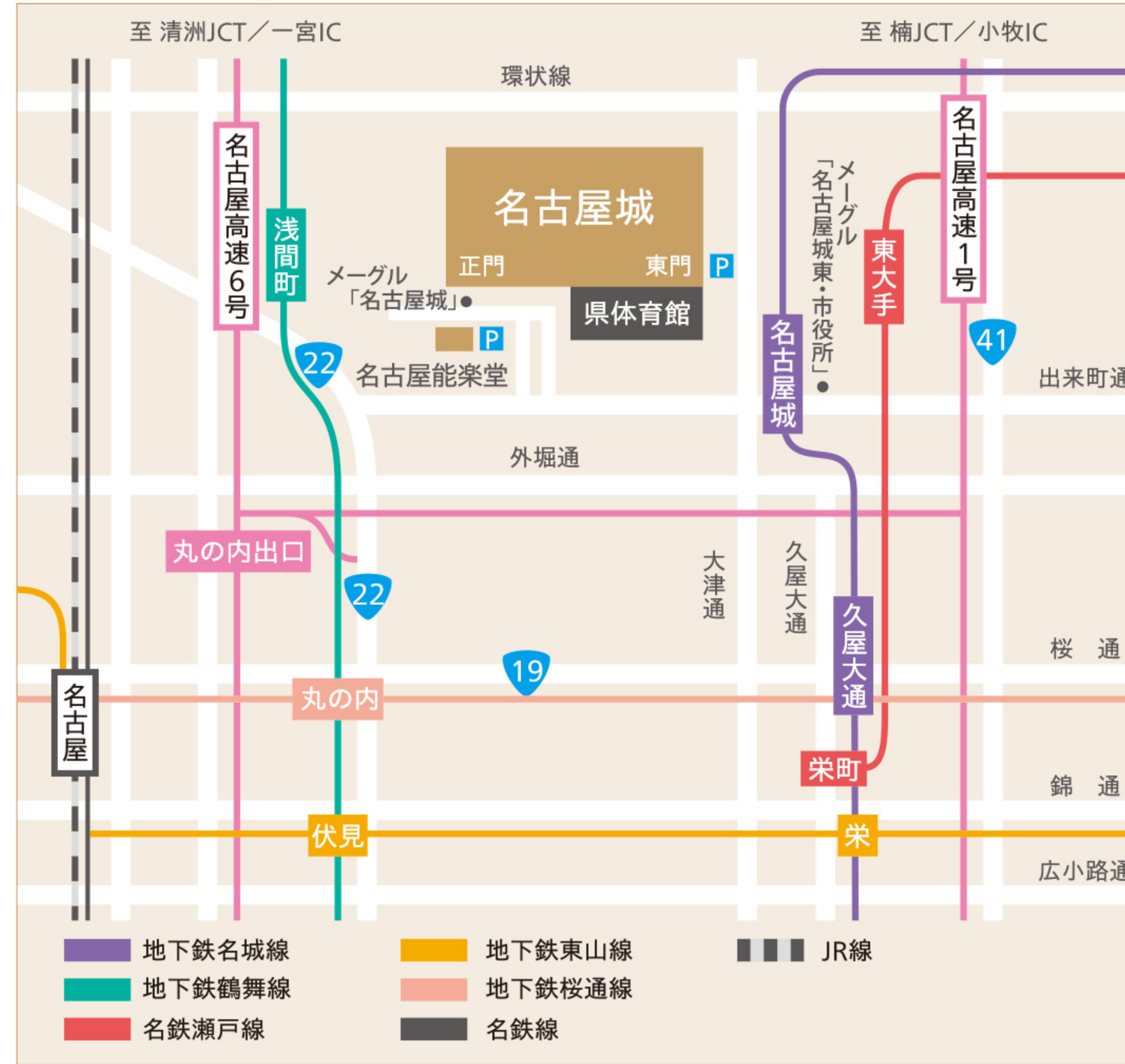
入園・催事等

名古屋城総合事務所
〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号
TEL: (052)231-1700 FAX: (052)201-3646
URL: <https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp>



土産品・食事・駐車場等

名古屋城振興協会
(所在地同上)
TEL: (052)231-1655 FAX: (052)231-1617
URL: <https://www.nagoyajo.jp>



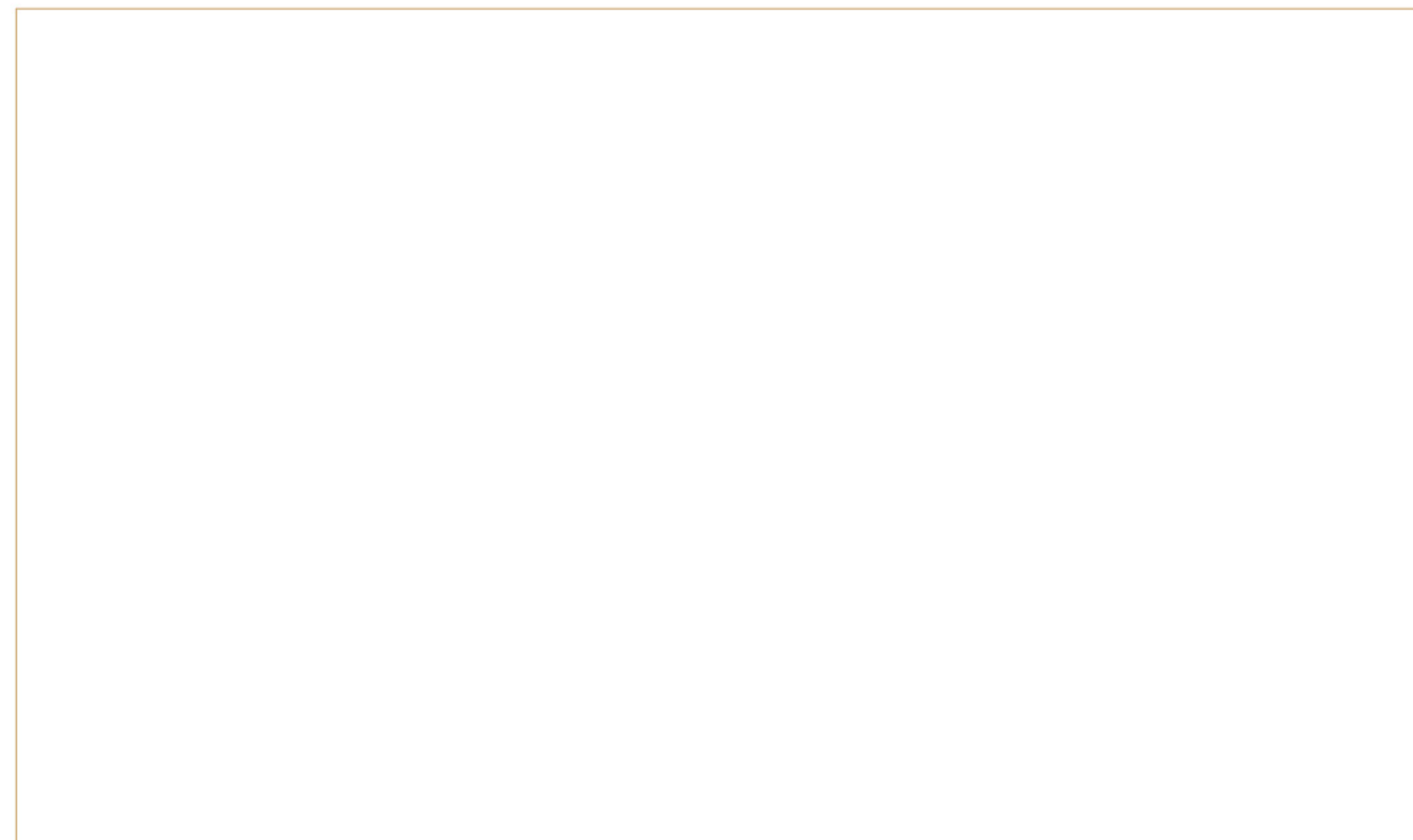
公共交通機関をご利用の場合

地下鉄名城線「名古屋城」下車、市バス「市役所」下車
なごや観光ルートバス「メーグル」
「名古屋城」または「名古屋城東・市役所」下車

車をご利用の場合

名古屋高速都心環状線「丸の内」出口から北へ5分

MEMO



名古屋市

名古屋城の生い立ち BACK STORY

関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、慶長14年(1609)豊臣方への備えとして名古屋城の築城と、清須から新城下への街まるごとの引越しを決定。この新たに造られた碁盤割の街が現在の名古屋の原型となり、町や橋の名前も受け継がれています。慶長15年(1610)名古屋城築城にあたって徳川家康は、加藤清正・福島正則ら西国大名20家に普請(土木工事)を命じました。これを公儀普請といいます。天守や御殿の作事(建築工事)は小堀遠州・中井正清らに命じられ、慶長20年(1615)にほぼ完成しました。尾張初代藩主として家康九男の義直が入り、以降名古屋城は御三家筆頭尾張徳川家の居城として栄えました。

現在の天守閣 CURRENT MAIN CASTLE TOWER



名古屋城は昭和5年(1930)、城郭建築における初めての国宝に指定されましたが、昭和20年(1945)の名古屋空襲により本丸のほとんどを焼失しました。しかし名古屋のシンボルとして天守閣の再建を望む市民の声は日に日に高まり、昭和34年(1959)ついに天守閣が再建されました。再建された鉄骨鉄筋コンクリート造の天守閣は、外観は昭和実測図に基づき正確に再現され、内部は焼失を免れた本丸御殿障壁画(重要文化財)や武器などを展示し、名古屋城の歴史を市民に紹介する博物館としての機能を果たしました。現在耐震性が低いことに対応するため、天守閣を閉館しています。

金の鯨(シャチ) KINSHACHI

鯨は空想上の生き物で、水を呼ぶと言われることから火除けのまじないとされてきました。名古屋城の金鯨には慶長大判1,940枚分の金が用いられ、徳川家の権力・財力の大きさを示しました。



金鯨の詳細

区分	雌(南側)	雄(北側)
高さ	2.579m	2.621m
重量	1,215kg	1,272kg
金板の種類	18K	18K
金板の厚み	0.15mm	0.15mm
うろこの枚数	126枚	112枚
金量(18K)	43.39kg	44.69kg

石垣の刻印(刻紋) STONE WALL CARVED SEALS

城内の石垣には多種多様な記号を刻んだ石があります。これは石垣の築造を命じられた諸大名が、他大名の石と区別するために刻んだ「目じるし」です。

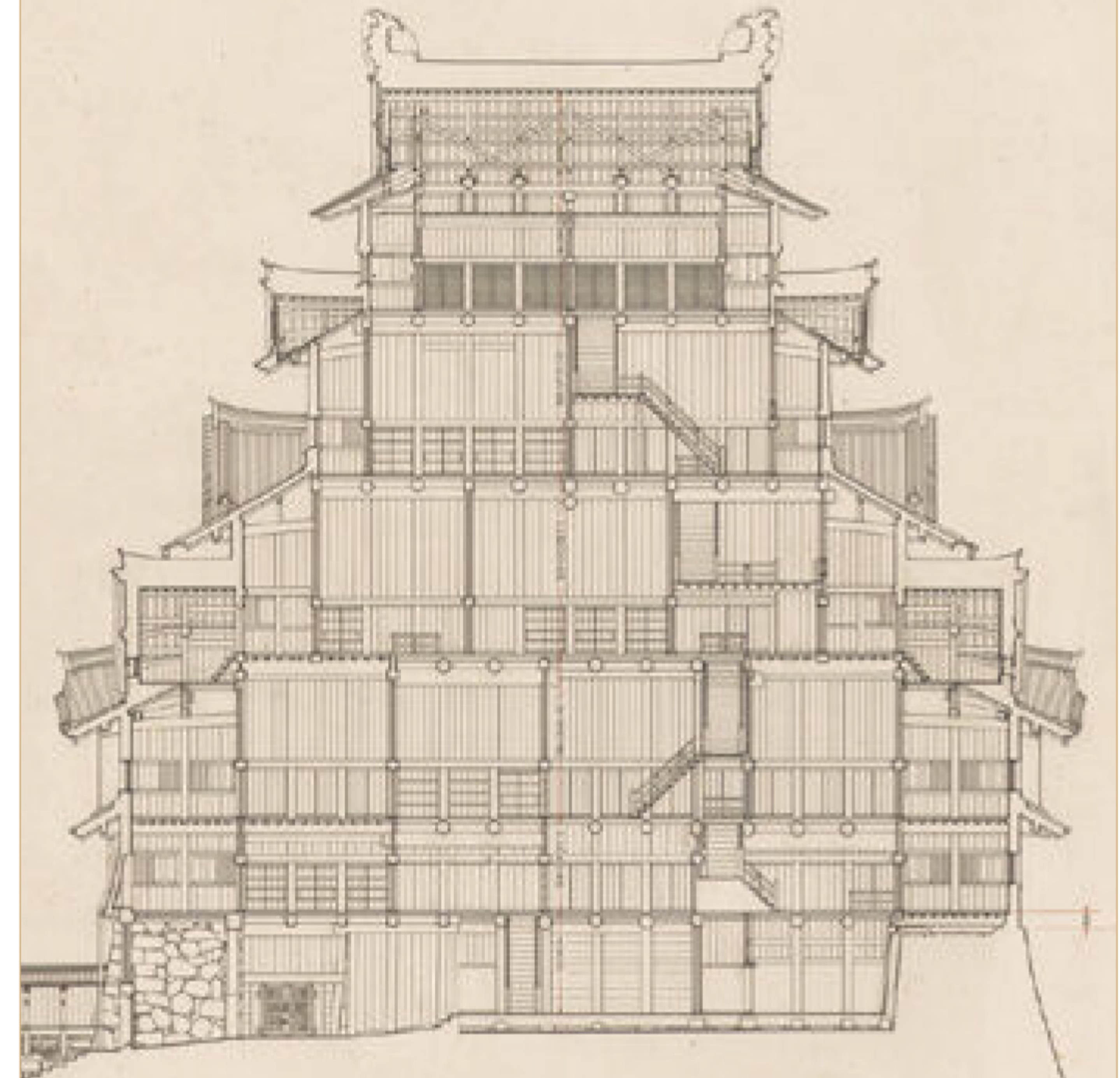
様々な刻印



天守の木造復元を進めています

WOODEN RESTORATION OF THE NAGOYA CASTLE TOWERS

現在の天守閣は、戦後、名古屋のシンボルとして再建された鉄骨鉄筋コンクリート造の建造物ですが、再建から半世紀が経過し、設備の老朽化や耐震性の確保などの問題が発生しています。そのような課題を克服するとともに、特別史跡名古屋城の本質的価値の理解を促進するため、「金城温古録」や「昭和実測図」、「ガラス乾板写真」など、現代に残された豊富な資料に基づき、天守の木造復元を進めています。



天守閣木造復元
復元事業の概要



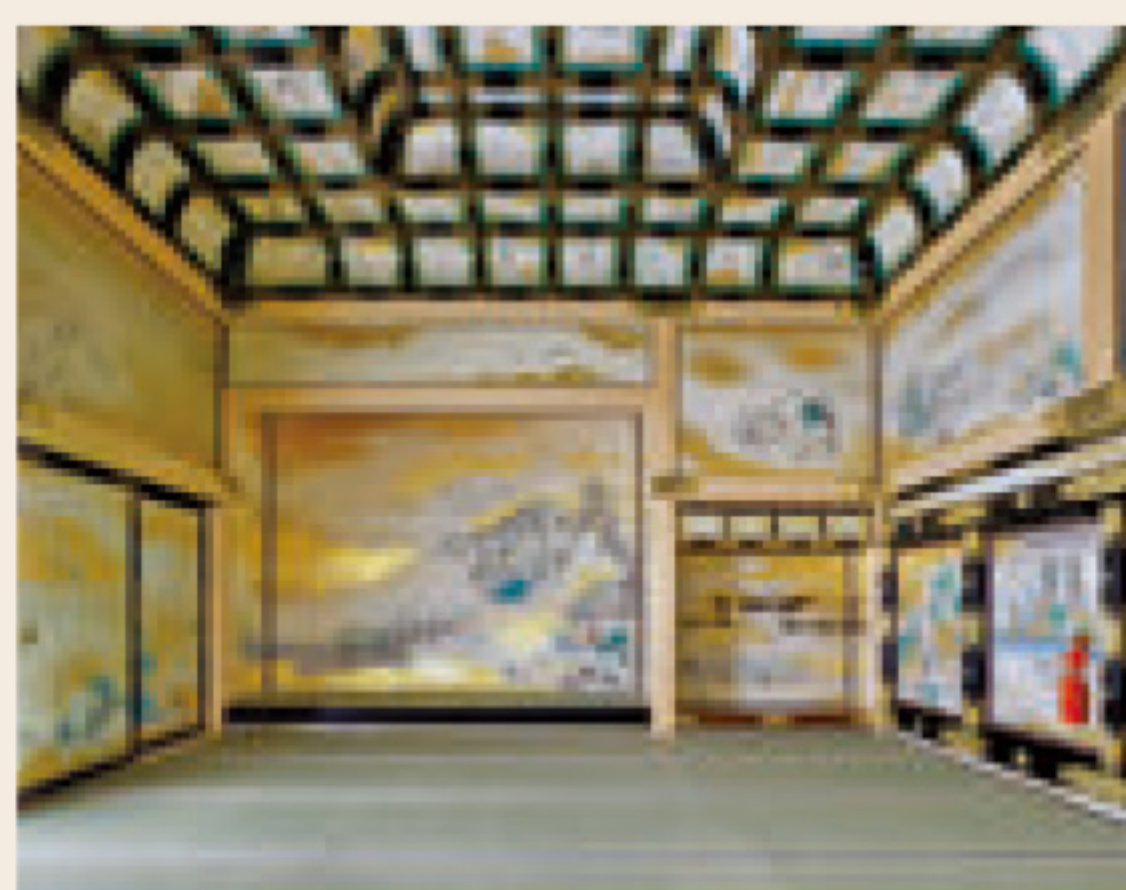
名古屋城内にあるみどころ HIGHLIGHT

名古屋城本丸御殿



本丸御殿は、初代尾張藩主の住居・政庁として使用するため、慶長20年(1615)に建てられ、後に將軍専用の宿館となりました。総面積は約3,100㎡、部屋数は30を超える平屋建ての建物です。昭和5年(1930)には、天守とともに国宝に指定され、名建築として知られていましたが、昭和20年(1945)の空襲により焼失しました。平成21年(2009)から復元工事を開始し、平成30年(2018)6月8日に全体公開となりました。

上洛殿



上洛殿は、寛永11年(1634)に三代將軍家光の上洛にあわせて増築された御成御殿です。江戸時代は御書院・御白書院と呼ばれました。本丸御殿で最も格式の高い建物であり、天井には板絵、部屋の境には極彩色の彫刻欄間がはめ込まれています。

本丸御殿音声案内ガイド 1回100円(本丸御殿受付にて貸出中)

西の丸御蔵城宝館



米蔵が立ち並んでいた西之丸に、令和3年(2021)11月、「西の丸御蔵城宝館」が開館。重要文化財「名古屋城本丸御殿障壁画」をはじめとする名古屋城の文化財を、さまざまなテーマのもとに公開します。

重要文化財



東南隅櫓(辰巳櫓)

本丸の南東隅にある屋根二重・内部三階の櫓。出窓には「石落(いしおと)し」が設けられています。かつては武具が納められていました。(内部非公開)



西南隅櫓(未申櫓)

規模構造は東南隅櫓と同じですが、「石落し」が西と南の二方向にあり、破風の形状も異なります。大正10年(1921)、災害により倒壊しましたが、名古屋離宮時代の正徳12年(1923)に宮内省により修復されました。そのため鬼瓦などに菊花紋が見られるのが特徴です。(内部非公開)



西北隅櫓(戌亥櫓・清須櫓)

屋根三重・内部三階の櫓。他の建物の古材を転用して建築されており、外部北面、西面に千鳥破風が作られ、「石落し」を備えています。(内部非公開)



本丸表二之門

本丸南側にあり、鉄板張りとし木材は木割りが太く堅固に造られています。門の左右は土塀で鉄砲狭間が開いています。



旧二之丸東二之門

高麗門形式で、二之丸東鉄門枅形にあった門です。昭和47年(1972)に本丸東二之門の跡に移設復元しました。

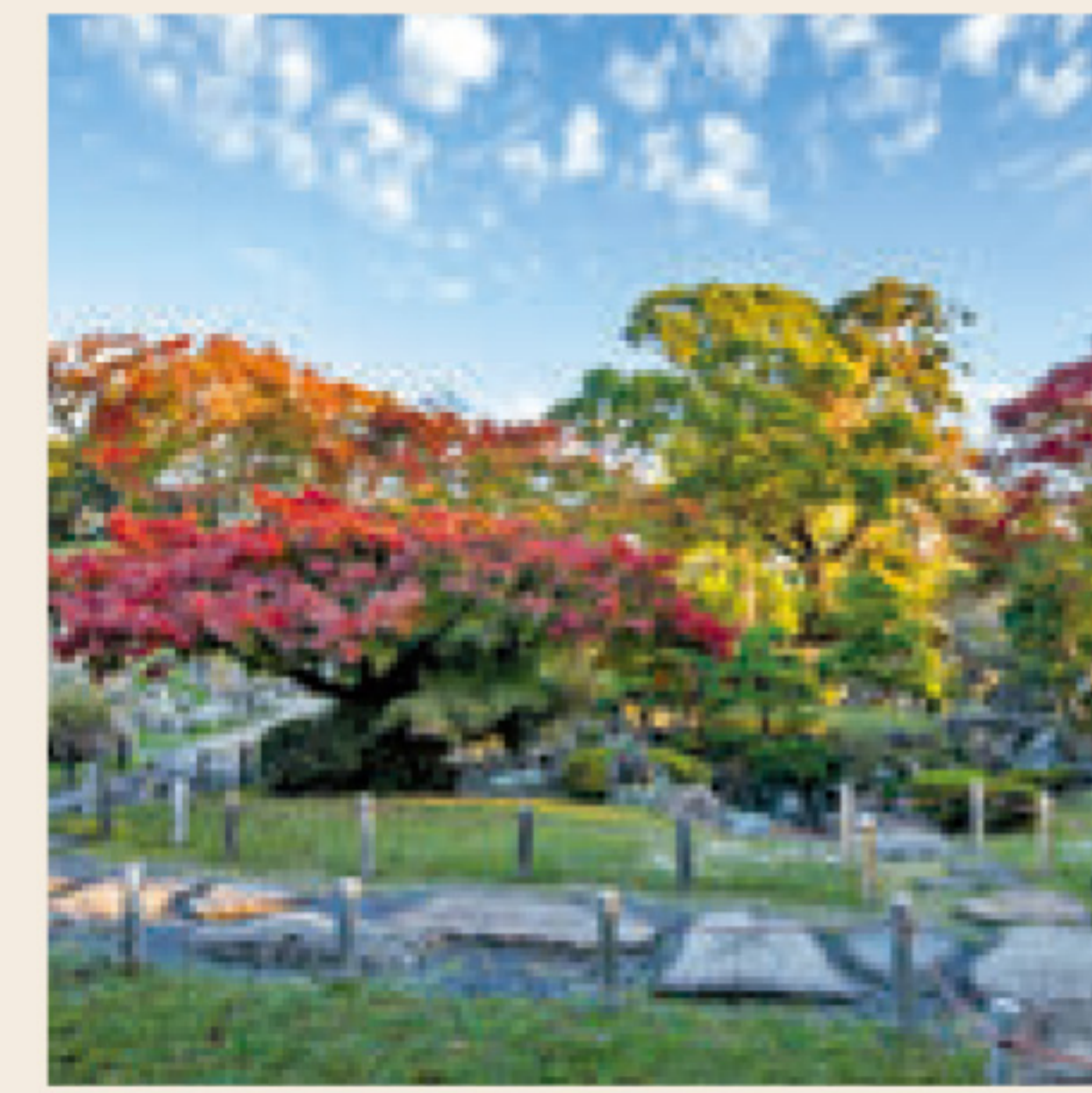
天然記念物 名古屋城のカヤ



推定樹齢600年の市内唯一の国の天然記念物です。この木から成る「カヤの実」は、江戸時代中期まで藩主の御膳に出されていました。名古屋空襲時の焼失をまぬがれましたが、幹の北側には大きく焼け跡が残されています。

名勝 名古屋城二之丸庭園

初代藩主義直による二之丸御殿の造営に伴い、御殿の北側に造られたのが始まりです。十代藩主斉朝による大改修で回遊式庭園となり、最も隆盛を迎えたと考え



られます。しかし、明治になるとお庭は北西部の一部を残してその姿を失いました。現在は、近世のお庭の姿を取り戻すため、整備を進めています。

国登録有形文化財 乃木倉庫

明治初期に陸軍の弾薬庫として建設されたレンガ造りの倉庫です。名古屋鎮台に赴任経験がある乃木希典大将



にちなみ、後に乃木の名が付けられました。名古屋空襲の前に、この倉庫へ本丸御殿障壁画を避難させて焼失を防いでいます。(内部非公開)



- 凡例
- トイレ
 - 多目的トイレ
 - 売店
 - 休憩所
 - 授乳室
 - AED(自動体外式除細動器)
 - 重要文化財
 - 食事
 - 喫茶・軽食
 - ロッカー
 - ベビーベッド
 - 救護所
 - ご利用の際はスタッフにお声がけ下さい。
 - 総合案内所
 - 駐車場
 - バス停
 - タクシーのりば
 - 地下鉄出入口

市バス停(安井町西行)
メーグル停留所(名古屋城)

名古屋能楽堂
正門前大型バス駐車場
正門前有料駐車場

金シャチ横丁
(義直ゾーン)

二之丸
大手二之門

ドルフィンズアリーナ
(愛知県体育館)

金シャチ横丁
(宗春ゾーン)
地下鉄名古屋城駅

市バス停(市役所)
メーグル停留所(名古屋城東・市役所)へ →